
春、屋根の上で/ナルシカ

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春、屋根の上でノナルシカ

【Nコード】

N6771A

【作者名】

深海

【あらすじ】

時季外れですいません……（・・・；

「なあ、シカマル…平和だなあ…」

「んー…」

気の抜けた声でシカマルを見上げるナルト。シカマルも同じく気の抜けた声で返す。

シカマルの家の屋根に登り、後ろ手について空を見上げるシカマルの膝の上に頭を乗せ寝転がるナルト。

ほんのりと温かい風が二人を撫で、春先の優しい陽射しが二人を包む。

「シカマル…平和だし、ちゅーしよっぜ？」

「んー…はあ？」

ぼんやりとしていたため、生返事をするシカマル。遅れてナルトの言葉を理解しすつとんきょうな声を上げて見ると、悪戯な笑みを浮かべるナルトと目が合う。

「へへ…じゃ、早速」

起き上がりシカマルに顔を近づけていくナルト。

「おいっ、今のはちゃんと聞いてなくて…んっ…ちよっ、ナルト！」

抵抗するシカマルの手を押さえて口付ける。それでは足りずに屋根にシカマルを押し倒す。

「聞いてなくても返事したんだから、ちゅーするってばよ」

「もーしただろ…離せっつーの」

不機嫌そうに眉間に皺を寄せるシカマルの柔らかい唇に、再びナルトの唇が触れる。

「一回じゃ足りないってばよ」

「…ったく」

ナルトの押しに負け、目を瞑るシカマル。その上にナルトの影が重なっていく。

「コラーッ！そんなところでイチャついてんじゃないわよー！」

誰かの叫び声に二人とも目を見開き慌てて離れ、下を見るといのとサクラがニヤニヤと笑いながら屋根を見上げていた。

「なっ…！いつからいたんだってばよ！」

「一回じゃってとこらへんからかしら…ねえ！」

目配せをしてキャアキャアと笑い合ついのとサクラ。
黙って見てるなんて酷いと騒ぐナルトをよそに、シカマルはわからない程に頬を染めて溜め息をついた。

f
i
n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6771a/>

春、屋根の上で/ナルシカ

2010年10月14日02時22分発行